

あんぽ柿原料果 放射性セシウム濃度の経年変化

福島県農業総合センター 生産環境部 流通加工科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 農産物における放射性物質の除去技術の開発

研究課題名 あんぽ柿の加工における放射性セシウム動態解明

担当者 佐藤真理・関澤春仁

I 新技術の解説

1 要旨

あんぽ柿の原料果について、同一樹で放射性セシウム濃度の経年変化を調査した結果、平均値は前年比約 8 割、前々年比約 4 割に低減していた。枝齢別着果位置と果実の放射性セシウム濃度は、全体的に濃度が低下し明確な規則性は認められなかった。

- (1) 昨年度調査した同一樹の 2 本の主枝(枝Ⅰ、枝Ⅱ)について、着果枝までの側枝の枝齢を確認して果実をサンプリングし、1 果ごとに放射性セシウム濃度を測定した。
- (2) 経年変化は図1のとおり枝Ⅰ、枝Ⅱとも果実の放射性セシウム濃度は最小値、最大値、平均値いずれの値も前年度より低下した。
- (3) 着果位置と枝齢の模式図を図 2 に示した。6年枝より古い枝は原発事故時に発生していた枝であり、1～5年枝は原発事故後に伸長した枝である。昨年は事故時に発生していた枝に近い位置から発生した枝に着果した果実は放射性セシウム濃度が高い傾向にあったが、今年は事故後に発生した枝の割合が高くなったことや全般的に果実の放射性セシウム濃度が低下しており、昨年のような傾向は認められなかった。

2 期待される効果

- (1) 安全なあんぽ柿生産のための基礎資料として活用できる。

3 活用上の留意点

- (1)調査した樹は原発事故後及び 2015 年に粗皮はぎを実施している。

II 具体的データ等

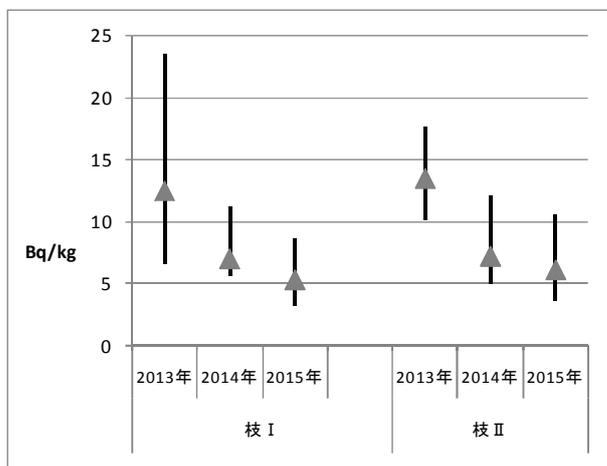
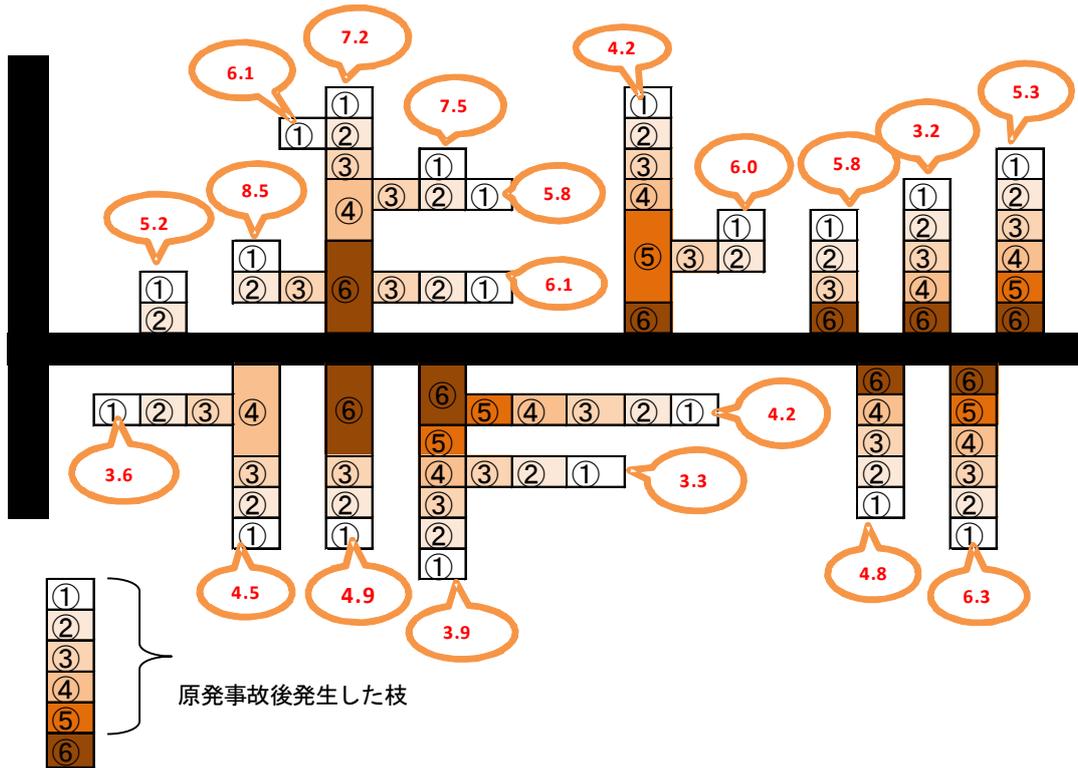


図1 果実の放射性セシウム濃度(セシウム 137)

枝 I



枝 II

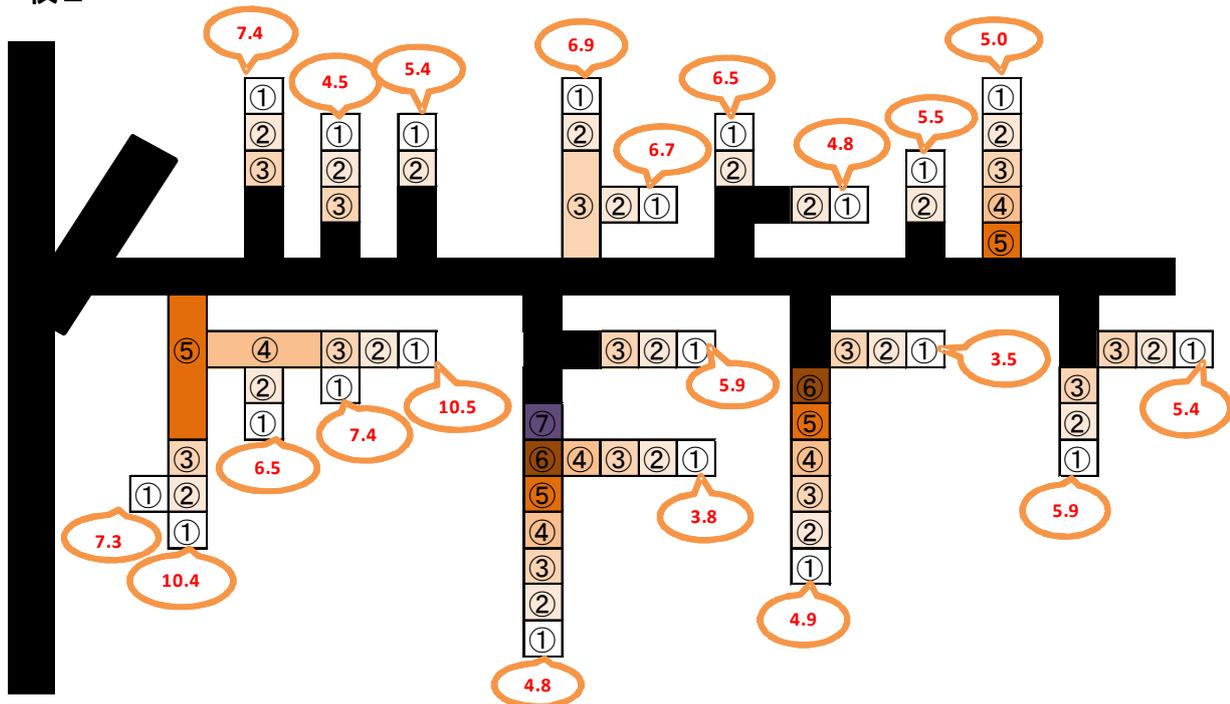


図2 枝齢・着果位置と果実の放射性セシウム濃度(吹き出し内の数値はセシウム 137 濃度(Bq/kg))

III その他

1 執筆者

佐藤真理

2 実施期間

平成 25 年度～平成 27 年度

3 主な参考文献・資料